

北区民まちづくり会議 摘録(平成26年6月2日(月) 午後6時～8時)

【開会】

- 委員の欠席をお知らせ
- 会議を公開(発言要旨を北区役所ホームページに掲載)することを説明
- 会議についてのアンケート依頼

【区長挨拶】

- 今回、北区民まちづくり会議を大きく見直し、様々な団体、各界の皆様から委員の就任をお願いして、北区のまちづくりに対し、高い御見識と広範な立場からの御意見をいただきたいと考えている。
- 会議の内容として、1点目は、平成23年度に策定した「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の中間見直し、2点目は、来年に迎える区政 60 周年記念事業についての意見を願うものである。
- 「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」が策定されて 4 年が経過し、高齢化社会の進展や消費生活のスタイルも急速に変化する中、計画が目指すまちの将来像「豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、人々がお互いに支え合い、活力を持って生き生きと暮らすまち」を実現するための施策や取組の方向性を今一度点検する時期に来ている。
- 区民の参加と協働を基本として、60 周年を契機とした地域コミュニティのさらなる活性化に向けて、委員の皆様から御意見をいただきたいと考えている。

【座長・副座長の指名】

区長が「京都市北区民まちづくり会議開催要綱」に基づき、座長(市川委員)、副座長(志藤委員、島田委員、谷口委員、宗本委員)を指名。

【委員自己紹介】

○座長

多くの皆様はこの会議に初めて出席されるので、簡単に自己紹介をお願いします。

○各委員

<自己紹介>

【議事】

○座長

次第に従い、議事を進行する。時間の関係もあるので、議題をまとめて事務局から説明をお願いします。

○事務局

<以下の議題について、資料3～6に基づき、説明>

- (1) 「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」の進行状況について(平成23年度～26年度6月現在)
- (2) 平成 25 年度 北区民まちづくり提案支援事業について
- (3) 平成 26 年度 北区運営方針について

○座長

事務局からの報告について、何か御質問・御意見などがあれば。

○副座長

教えてもらいたい事業内容がある。一つは、運営方針にある「北山三学区のまちづくり支援」は具体的にどのように取り組むのか。次にコミュニティラジオが「大学連携事業」として挙げられているが、どんな取組状況か。

○事務局

「北山三学区まちづくりビジョン」は、地域の方々と2年をかけて策定したものである。今年はその具体化のステップだと考えており、地域の役員の方々と取組について話をしている。具体的にはとっかかりとして何をすべきか、北山三学区が何を望み、何をサポートするのか、を考えていきたい。

コミュニティラジオについては、北山山間部も含めて、防災に役立てないかと考えている。また、地域コミュニティの活性化に使えないかとも考えている。大学生の行動力を使って、地域の魅力を発信したい。今年ラジオを開設できるかどうかを検討していく。具体的化できるということになれば、大学と連携して進めていきたいと考えている。

○委員

昨年度の取組として避難所運営マニュアルを作っている。佛教大学に御協力いただき、カラーの冊子でいいものができたが、20冊しか貰えなかった。紫野学区は町内会が約50、他にも団体がある。各町内が、災害時に紫野小学校に避難するというので、少なくとも各町内分は必要だが、20冊では配れない。追加でカラーの冊子の印刷を区役所にお願いしたが、「各学区に渡す冊数が決まっていて追加印刷する予算がない」と言われた。せっかく作ったのに、すべての町内の団体に配れないとは宝の持ち腐れだ。白黒でよければ区役所で印刷してお渡しすると言われたが、カラーでないという意味がない。足りない分は、地域で工面して作ったが、事業を進めるときは、せめて学区としてどれだけ必要か調べて、おやりになったらどうかと思った。

○事務局

避難所運営マニュアルは、各学区の自主防災会の方とともに、手順書としてまとめたものである。立派なものが地域の協力によりできた。マニュアルには避難所となる小学校のカギを誰が持っていて、その連絡先などまで書いてある。役員の交代もあり、修正すべき箇所も出てくるので、今後は、各学区でデータを更新して印刷してほしいとデータもお渡ししているので、ぜひこのように運

用していただきたいと考えている。

○委員

先ほどお話の出た「北山三学区まちづくりビジョン」作成に関わらせていただいたが、質問させていただく。北山三学区については、市街化調整区域の規制が課題となっている。例えば、うどん屋や、観光のお店をしたいと思ってもできない。まちづくりビジョン作成のための第1回の会議でも市街化調整区域について質問させてもらったが、「住民の合意があれば、はずせる」とのことだった。住民が合意しない場合、市街化調整区域をはずさないで、本当に地域を活性化できるのか。

○事務局

おっしゃるとおり、市街化調整区域の例外化には住民の合意が必要である。制度上の問題があるのは、住民も御存知だ。地域の方は、市街化調整区域の規制をはずすことを必ずしも望んでおられないという認識である。大学と連携して、外の方との交流を進めることや地域の情報発信の工夫をするなど、現実的なことに取り組もうとされておられる。地区計画などは、ハードルが高いので、現実的な取組に向けた意見交換をしようということで地域の方は話をされている。

○委員

「ここに住みたい」「老後暮らしたい」という外の方からのお話はある。ただ、今の状況では、更地に家を建てられない。空き家があれば改築して住めるということだが。区役所には、活性化のために、色々やっていただいてありがたいが、本当にここに住みたいと思っている人が住めないという問題がある。

○区長

「北山三学区まちづくりビジョン」は相当の予算と2年の歳月をかけ、区役所の幹部職員も地域に入り、作ったものである。区役所の立ち位置だが、三学区と言ってもそれぞれ各学区で住民の考え、地域性も違う。ビジョン作成により、ようやくそれぞれの学区においてまちづくりを考えていこうという話ができた。住民の方が中心となってまちづくりをやっていくというスタートに立てたと思っている。26年度の200万円という予算は、まちづくりビジョンでまとめた考えを継続していくためのものである。空き家の改築については、資産価値の問題でローンも組めないという話も聞く。行政としては、法制度のもとで、住民が中心となるまちづくりを進めて行こうと思っている。これまで、三学区で色々な事業をやってきたが、なかなか続かない。

委員の御質問に対し答えになっていないかもしれないが、打つ手がないか考えているし、地域の方が主体的にまちづくりをしようとお考えていただいていることが重要だと思っている。まずは、交流人口を増やして、外からも注目してもらえるまちづくりをしていきたい。

○委員

部分的にでも市街化調整区域をはずすという話ができないか、よろしく願います。

○委員

平成26年度運営方針に「認知症サポートネットワーク事業の推進」とあるが、「地域」の入るところがない。地域包括支援センターのいう「地域」は業者のことであり、地域住民は入っていない。住民は、どういう人が認知症かわからない。ふらふらしている人がいたら、「とりあえず地域包括支援センターへ」と言われている。地域ができることが何かあるか。

○事務局

「認知症サポートネットワーク事業」は、上京区、北区が合同で推進しており、今年で2年目である。その取組の中では、徘徊している人に対してどう対応するかという勉強会や訓練もする。今年の計画の中では、専門職向けだけではなく地域支援者向けの勉強会も予定している。当面は民生委員、老人福祉委員が中心となると思うが、今後、地域住民が入っていただくことになる。行政だけで対応できるとは考えていない。現在は、地域の方と一緒に取り組んでいくための過程として取組を進めている。

○委員

現時点では、地域としては具体的には何もなくてよいのか。

○事務局

認知症と思われる方がいたら、行政につなぐなど、地域の中でアンテナをはっていただきたい。

○座長

それでは、意見交換に移らせていただく。自己紹介の際に、各委員がそれぞれ取組まれていることなど、お話いただいたが、他に「ぜひ情報共有したい」「披露したい」という思いの方がいらっしゃれば、発言をお願いします。

○委員

問題提起させていただきたい。北区は大学のまちで、留学生も多くいる。地域の活性化や高齢者支援も勿論大事だが、人口が増えないと地域が活性化しない。留学生が卒業後に残る割合が、京都は全国の半分くらいである。留学生が京都から離れてしまう課題がある。留学生を含めて若者が京都に住んでくれるようにしないと。若者は宝なので、大切に育てていかないといけない。昭和49年頃から事業をしているが、当時は下宿ばかりだった。下宿だと、地域行事に参加するなど楽しい経験をし、また、京都に戻ってきたものだ。今は、マンションが多く、誰が住んでいるか、地域住民も知らず、学生同士の交流もない。大学の連携が大切だが、行政の力に加え、民間の力もいる。

○副座長

今の発言は、大学にとって、ありがたい。「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」には「大学の力が生かされるまちの創造」とある。私は、滋賀県や京都府の他の自治体にも関わってきたが、

どこでも大学生を非常に大切に考えている。北区は恵まれている。「大学の力が生かされるまちの創造」というのは大事だが、大学生がそこに暮らしていることを大切にするということが重要だ。学生が北区にいるということが大事なことである。学生がいるということがどんなに恵まれているか、甘えているところがあるのではないか。もう少し学生がいることを大事にするという施策が必要である。具体的にいうと、文化系の部活・サークルは、大学を超えた交流がない。北区の4大学で寄りあって何かできないかと思っている。

○座長

区役所は、大学連携の取組を進めているが、もっともっとということですね。

○副座長

先ほどの話で言えば、例えば写真部は「北区」をテーマにつなげられないかなど。大学コンソーシアムにも関わってきてはいたが、北区としてもう少し何かできないか。

○副座長

地域が大学を使っていくための仕組みが要る。北区コンソーシアムのようなものをつくってはどうか。研究ベース、学生生活ベースでも、考えられる。例えば、区長と大学生が地域連携について話し合う場ができたらと思う。

余談だが、学食は要らないと思っている。学食があるから、学生が大学の外に出ない。学割などがもっとあれば、学生は地域で食事をする。そういうことから、各大学の近辺のまちと学生の交流が活性化する。

○副座長

地域連携室が立命館大学にはある。私が所属する建築都市デザイン学科は草津キャンパスにあるが、そこでは、先日、サンクスデーを設け、20周年記念オープンキャンパスを開催し、学生を総動員して、出し物を準備して、子どもたちをはじめ地域を受け入れた。大学が地域を受け入れるということも重要だ。

○委員

学生の気質が昔と変わったなと感じる。今の学生はおとなしい。大学の管理が行き届きすぎている。食事も喫茶も学内でできてしまうので、外に出ない。マンションと大学を行き来できるだけで、生活が充足できることが問題だ。

以前は、学園祭のときには、学生が地域の人に「来てください」とチケットを持って来てくれた。地域とつながりを進めようとしていた。今は、うるさい音が聞こえてくるだけ、大学からのおことわりもない。

社会福祉協議会で、多くの実習生を受け入れているが、みんなまじめで若くてすごくいい。認知症の見守り活動にも、学生が熱心に参加してくれる。学生にとっても社会を学ぶ機会となっている。大学の門がどうしたら開くのか。地域は学生をどう受け入れたらいいのか。大学が地域に働きか

けることも必要である。

○委員

大学生と連携した商店街の取組として、精華大学の学生にベンチを作って貰った。京都産業大学の放送部やチアガールがまつりに参加してくれた。学生に助けてもらい、学生がいなければできなかつた。先日は、商店街の20周年記念パーティーがあり、そこにも応援団の吹奏楽が来てくれ、盛り上げてくれた。大学生の参加が地域の活性化のためにも必要だと感じている。京都産業大学の落研(おちけん)がきっかけで、10年以上続いている活動もあり、先輩から後輩に続いていることがありがたい。

○区長

24年に北区の4大学法人と連携協定を結んだ。昨年から具体的事業を進めている。一つは、柘野学区のでモビリティ・マネジメント。京都産業大学も地元として、主体的にやってもらっており、区は事務局となっている。

もう一つは、大学からの提案があつた避難所運営についての取組だ。大学が、災害にあつたときにどのように地域を受け入れるか、学生にどう対応するかについて情報交換を進める。

大学連携の取組については、調整機能を区役所に求められている現状があるので検討していきたい。同じことでも大学によって対応窓口に差異があり、北区の中でルールづくりを進めていきたいと考える。大学連携については、1年目に協定を結び、2年目に具体的なことが出てきて、3年目の今年度は連携のルールづくりを大学の皆さんとやっていきたい。

さきほどの人口増の話もありがたい御指摘だ。地元市会議員の先生からも人口問題の提起をいただいた。今後、ご指摘いただいた切り口でも検討したい。

○座長

他に御意見等がなければ、公募委員の方に、本日の感想を伺いたい。

○委員

学生の立場でお話を伺っていた。1回生なので、これからじょじょに地域に入っていきたいと思う。大学連携の取組については、知らないことも多かつた。今回、会議に出席し、考える機会をいただき、自分なりにこういう活動をしたいという思いもある。学生同士で地域とつながりを持っていくのは大切だと考える。

○委員

素朴な感想として、各事業の予算額に驚いた。人口で割って一人あたりに換算するととても低い。お金を使わず知恵を出すことができるのなら、これだけの会議のメンバーがいるので、みんなで地域で取り組んでいきたい。

○座長

それでは、その他について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

来年、北区は区政 60 周年を迎える。区役所としては、区政 60 周年を契機として、北区の更なる発展をめざすため、記念事業を実施することにより、多くの区民とともに祝いたいと考えている。

60 周年の記念事業の推進については、区民の立場から幅広い意見を取り入れていきたいと考えている。来年の 60 周年に向けて、今後とも理解と協力をお願いします。

○座長

本日予定されていた議題はすべて終了した。委員の皆さんに感謝する。進行を事務局に返す。

【閉会】

○事務局

座長、ありがとうございました。委員の皆様も活発で有意義な御意見をありがとうございました。

今後は、各委員から頂いた様々なご意見を事務局でとりまとめ、いくつかのテーマに絞って、議論を深めてまいりたい。時期や手法については、これから事務局で検討させていただくので、ご参加をお願いします。

これで北区民まちづくり会議を終了する。

<以上>